株式会社タケノ

山田 千晶さん

Yamada Chiaki

Profile

加賀市生まれ。大聖寺高等学校、文化女子大学（東京、現文化学園大学）出身。大学卒業後、父が経営するタケノに勤務。転勤の多い夫と結婚し専業主婦に。子育てが落ち着いたことから2013（平成25）年に同社に再就職。建築板金職人としてきめ細かな施工に心を砕いている。

株式会社タケノ（野々市市）

1923（大正12）年創業の県内を代表する建築板金企業。屋根・外壁・雨どいの工事を専門に手がけ、住宅や倉庫から大型建造物まで多岐にわたる施工を請け負う。【本社】野々市市押越1丁目42番地　【資本金】1400万円　【代表】竹野一茂　【従業員数】33名

課題を完成させられなかった悔しさが
1級建築板金技能士合格につながりました

職人の こだわり

安全面には細心の注意が大切です。高所作業時にはしっかりとハーネスを着用します

かっこいい〜!!

仕事の夢♥ 歴史に残したい！

金沢城公園では二の丸御殿などの復元工事が計画されています。せっかく職人になったからには、歴史に残る事業に参加したいですね。

建築板金職人までの道のり

◎事務員だった40代半ばから建築共同高等職業訓練校に通い基礎を身につける

「息子とあまり変わらない年齢の同級生と机を並べ、一緒に制作に取り組む時間もとても楽しかったですね」（山田 さん）

現場に合わせて工場で加工することもしばしば。折り曲げたり、切断したりと、さまざまな機械があります

数少ない女性職人として さまざまな建設現場へ

かつては圧倒的に男性が多かった建築板金の世界にも少しずつ女性の活躍が目立ち始めています。タケノ（野々市市）の山田千晶さんもその一人です。工場や体育館、ドラッグストアなどを中心に、さまざまな建設現場に足を運んでおり、大型施設になると20人ほどの職人とともに汗を流すことも。男性職人に囲まれながら、山田さんは負けず劣らずの仕事ぶりを見せています。

そんな山田さんですが、建築板金職人になってからの道のりは順風満帆だったわけではなく、自身の力不足を痛感する出来事がありました。1級建築板金技能士の資格取得に初めて挑戦した時、山田さんは試験終了と同時に不合格を確信します。なぜなら、実技試験で出された課題を仕上げることができなかったからです。

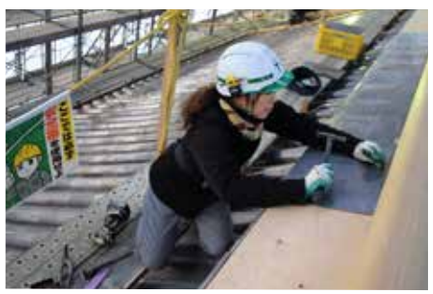
「悔しかった」と言葉少なに振り返る山田さん。ただ、決して下を向くことはなく、業務が終わった後や休日を利用して練習を繰り返しました。そして、翌年の再挑戦で1年間の努力が実を結びます。県内女性初の1級建築板金技能士への合格を果たしたのです。

一人でなく、チームで挑むからこそ 完成した時の達成感はひとしお

建築板金職人の道に飛び込んではや10年。「寒風が吹きすさぶ冬の現場は手がかじかんで思うように動きません。何年たってもつらいですね」と話す山田さんですが、その表情には職人仕事に対する日々の充実感もはっきりと浮かんでいます。

大きなやりがいとなっているのが、完成した時の達成感です。手がける物件の多くは地域のランドマークや多くの人でにぎわう店舗などで、「建設に携わった現場近くに足を運んだ時には、ちょっとだけ遠回りをして見に行くこともあります」と笑う山田さん。一人ではなく、チームで挑戦した現場の一つひとつが思い出深い場所になっています。

金沢城鼠多門の屋根に 繊細な手仕事が生きる

建築板金の現場にはさまざまな作業があり、大型施設の現場では職人一人ひとりの得手を生かしながら施工にあたることが重要です。そんなチームの力が発揮された一大事業が、山田さんも参加した金沢城鼠多門の復元工事でした。屋根に使われたのは、普段の現場ではあまり使わない鉛板。軟らかい材質で、いつも扱っている鉄板と同じ要領でたたいて伸ばしていると割れてしまうことがあったそうです。そんな中、山田さんをはじめとした女性職人の細やかな手仕事が、きれいな仕上がりにつながりました。

「往時のお城を忠実に再現する復元工事を通して100年以上前の職人技に触れられ、たくさんの学びがありました。金沢城公園では総仕上げとなる二の丸御殿の復元計画が進んでいます。この事業にもぜひ参加したい」と山田さん。世紀を越えて受け継いでいく令和の城づくりを控え、一層のスキルアップに余念がありません。